

を発見することは困難と考え、面的な掘り抗を持つ「坪掘り抗」という手法で、地層の砂やその上下にある年代測定資料等の分析を積極的に行った結果、大津波の痕跡を発見、その後何ヶ所かで坪掘り抗の調査を続け、総合的なシュミレーションでは仙台平野では海岸より 600 ~ 1500m の内陸部まで津波はうち寄せ、河川付近は更に上流まで津波は朔流した。

波高は推定、海岸で 9 ~ 10m 位とした。

仙台平野の中心地、多賀城に国府があり、ここに残されていた多数の古文書に「多賀城が壊れた」「千人が流された」「数千里が海になった」という記述があったが、実証されないままになっていたが、古文書の記録が事実であった事が証明された。

869 年（貞観 11 年）今から 1142 年も昔で、平安中期、藤原氏全盛の頃、若き菅原道真が新進気鋭な官人として登用された頃です。

この大津波は浜通り一帯も襲っており、富岡海岸も調査すれば駅付近まで津波の痕跡があるかも知れません、

この貞観津波が明るみにでてから、安全対策見直しが提案、津波の最大波高は 10.6m と修正され、その対策として、ここ 3 年の間に対策委員会を立ち上げる程度で、未だ本格的な活動には至ってはいなかった。なにしろ千年以上昔のことであり、歴史感覚では今すぐやらなければならないという緊迫感は全くなかったようだ。

事業仕分けでも千年に一度のことを今すぐやらなければならない理由にはならない、と答弁したばかりなのに、翌年早速襲ってきた。

近年、国外での津波の状況をみてみましょう。1960 年 5 月 22 日のチリ海底地震では最大 8.5 それから連続して M7.0 クラスの地震が連続し、チリ沿岸で最大 18m の津波が襲い、ハワイ・ヒロ湾で 10.5m、我国では 22 時間後の 5 月 24 日未明 最大 6.0m の津波が三陸沿岸を襲い、142 人が犠牲になった。

2004 年 12 月 26 日 午前 7 時 58 分、インド・オーストラリア・プレートのインド洋海底で発生した M9.3 の大地震で津波が波高は平均で 10m 超えの大津波となり、ベンガル湾一帯での犠牲者約 60 万人（国連推定）と言われている。

その他 世界の例をみても地震 M8.0、津波も波高 10m はあり得ることであって、我国周辺では絶対にありえないことだと決め付けていた「安全神話」は根拠のない願望の世界でしかなかった。

「原発に安全神話はありません」

福島第一原発事故の時間的経過をもう一度辿ります。

3 月 11 日	午後 2 時 46 分	東日本大震災発生
	午後 7 時 3 分	政府、原子力緊急事態宣言
	午後 9 時 23 分	3km 圏内の避難指示
3 月 12 日	午前 5 時 44 分	10km 圏内の避難指示
	午後 3 時 36 分	1 号機水素爆発
	午後 6 時 25 分	20km 圏内避難指示
3 月 14 日	午前 11 時 1 分	3 号機水素爆発
3 月 15 日	午前 6 時頃	2 号機で衝撃音（水素爆発ではなかった。原因不明）
		4 号機でも爆発（水素爆発）